

JAPIC NEWS

Japan Pharmaceutical Information Center

No. **467**



■ 巻頭言

最近の話題から-AIについて-

一般財団法人日本医薬情報センター 理事長 赤川 治郎 2

■ 知っておきたい!

確かな情報を得るための「検索技術者検定」

鶴見大学 名誉教授 原田 智子 4

■ インフォメーション

「改訂新版 重篤副作用疾患別対応マニュアル 第4集、第5集」発行しました! 6

4月末発売!2023年版「医薬品製造販売承認品目一覧」/承認品目全データ 7

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2023年4月版」

薬系大学新1年生向けに 日本の医薬品 構造式集 2023を無償提供! 8

臨床試験情報JapicCTI事業終了のお知らせ

■ コラム

くすりの散歩道No.152

「薬と私のつきあい。そして、これからもお世話になります!」

(一財)日本医薬情報センター 理事 多田 千里 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) 10

■ 図書館だより No.393 11

■ 情報提供一覧 11

April 2023

4

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

最近の話題から-AIについて-

一般財団法人 日本医薬情報センター
理事長

赤川 治郎 *Akagawa Haruo*



最近、人工知能(AI)に関する話題には事欠きません。2022年11月30日にOpenAIはチャットボット(「チャット」と「ロボット」)を組み合わせた造語でテキストや音声を通じて自動的に会話するプログラムであるChatGPTが公開されたからです。その性能の高さから話題になっています。OpenAIは何をミッションにしている会社なのかウェブサイト(<https://openai.com/>)で調べると、“OpenAI is an AI research and deployment company. Our mission is to ensure that artificial general intelligence benefits all of humanity.”と書かれており、また、この会社は、Microsoft等から投資を受けていることも明らかにしています。

少し古くなりますが、平成28年版情報通信白書によれば、人工知能(AI)という言葉が、初めて世に知られたのは1956年の国際学会と比較的新しく、AIは大まかには「知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術」と説明されるものの、その定義は研究者によって異なっている状況にあり、その背景として、まず「そもそも『知性』や『知能』自体の定義がない」ことから、これを定義することもまた困難である事情が指摘されているとのことです。AIの研究は1950年代から続いており、その過程ではブームと冬の時代が交互に訪れてきたとされ、2000年代から現在まで第三次のブームが続いており、いわゆる「ビッグデータ」を用いてAIが知識を獲得する「機械学習」が実用化され、次いで知識を定義する要素(特徴量)をAIが自ら習得するディープラーニング(深層学習)が登場したことが背景にあるとされています。ここで、特徴量とは対象を認識する際に注目すべき特徴は何かを定量的に表すことであり、ディープラーニング以前は人間の手で特徴量を設計していたが、ディープラーニングによって画像認識や音声認識等でコンピュータが自ら特徴量を作り出すことが可能となった点で画期的な要素技術であるといわれています。今後は個別の分野における具体的な問題に対応できるAIを個々に実用化していくための研究がより重要になっていくと想定され、実用化を目指す特定の分野における大量かつ適切な内容のデータを用意し、ディープラーニングを用いた機械学習をさせること、またそれを可能とする情報処理能力が提供されて初めて、当該

特定分野におけるAIが実用化に至るとされています。「AIをどのような分野でどのように使用するか、あるいは使用しないかは、あくまでも人間が設定するものである」という段階にあるが、将来、我が国が抱える様々な課題の解決に役立つと思うかについて有識者に対するアンケート調査(総務省「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」(平成28年))を行った結果によると、その解決に寄与すると思う課題の中には、労働力不足や過酷労働及びそれに起因する問題、事故の未然防止、医療データの活用等での課題解決などが含まれており、AIの利活用が望ましい分野として、生体情報や生活習慣、病歴、遺伝等と連動した、健康状態や病気発症の予兆の高度な診断が公共交通の自動運転と並んで最上位に挙げられています。一方、AIの導入で想定される雇用への影響については、例えば、米国の職業701種につき将来AIや機械が各職業を代替することができる技術的な可能性を分析した研究では、47%が代替できる可能性の高い職業に従事していると指摘されており(Frey and Osborne(2013), “THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?” Oxford Martin School Working Paper)、これに対して、この米国の研究を日本に当てはめた場合、米国と同様の傾向となり、将来AIや機械が代替することができる技術的な可能性が高い職業が49%であるとされている研究(野村総合研究所ニュースリリース(2015年12月02日))がありました。これらが示すように、考えるべきはAIが生み出す業務効率・生産性向上と新規業務・事業創出の2つの効果と、雇用の基礎を構成するタスク量の変化ということになります。今後、AIの普及に求められる人材と必要な能力として上述の有識者に対する調査ではチャレンジ精神や主体性、行動力、洞察力等の人間的資質、企画発想力や創造性といった能力が挙げられています。

さらに、AIの最近の動向として、ファウンデーションモデル(基盤モデル)の登場があります。「基盤モデルとは | TRAIL(u-tokyo.ac.jp)」(<https://trail.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/22-12-01-foundation-model/>)によると、基盤モデルは、多様かつ大規模なデータで学習した大規模モデルであり、ファインチューニング(微調整)してトランス

ファラーニング(転移学習)したりすることで様々なタスクに活用でき、つまり、従来の「単一タスク、単一モデル」から「多様なタスク、汎化モデル」としての活用が可能となります。このようにタスク毎にモデルを設計する必要がなくなることが可能となった理由には、ハードウェア性能・能力とソフトウェアの最適化、Transformerモデルの開発([Vaswani et al. 2017])、大規模データの利活用が挙げられています([2108.07258] On the Opportunities and Risks of Foundation Models(arxiv.org))。ここで、Transformerとは、attentionメカニズムを介してエンコーダ/デコーダを接続し、ベストパフォーマンスを発揮する、当該attentionメカニズムのみに基づいてrecurrence(再帰)とconvolutions(畳み込み)を完全に不要にする新たなシンプルなネットワークアーキテクチャとして提案されたものです([1706.03762] Attention Is All You Need(arxiv.org))。また、これに加え、基盤モデルの性能として、スケーリング則と呼ばれるものが注目されており、その3つの変数(訓練ステップ、データセットサイズ、パラメータ数)が重要となり、現状ではこれらの3つの変数を大きくすればするほど、基盤モデルの性能が向上することが示唆されており、すなわち、データ数とモデルを大規模にすればするほど、性能が向上するということです。2017年に発表されたこのTransformerが自然言語処理に用いられるようになり、次々と性能を上回るモデルが登場し、2020年にOpenAIが高精度言語AIとしてGPT-3をリリースし、自然言語処理の様々なタスクで驚くような性能を発揮するに至りました。基盤モデルとしては、GPT-3は言語(language)を扱うものですが、このほか視覚・言語(vision and language)を扱うものも含め、様々な種類があり、用途により使用する基盤モデルを選択することになるとのことです。

2022年4月、政府は「AI戦略2022」(2022年4月22日統合イノベーション戦略推進会議決定)を公表し、この中で「人間尊重」、「多様性」、「持続可能」の3つの理念のもと、Society 5.0を実現し、SDGsに貢献するとし、5つの戦略目標(人材、産業競争力、技術体系、国際、差し迫った危機への対応)を設定の上、特に社会実装の充実に向けて新たな目標を設定して推進するとしています。AIの社会実装に向けた取組としては、画像認識、自然言語処理等での広範かつ効果的な活用が期待されるディープラーニングを重要分野として位置づけ、企業による実装を念頭に、AIの信頼性の向上(「説明可能なAI」など「責任あるAI」の実現、ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)に関する取組)、AI利活用を支えるデータの充実(厚生労働省関係では、保健医療・介護分野の公的データベースのAI開発における有用性の検討)、追加的な環境整備(厚生労働省関係では、AIを活用した医療機器の開発・研究における患者データ利用の環境整備)などに加え、日本が強みを有する分野とAIの融合(厚生労働省関係では、全ゲノム解析等に加えて、オミックス情報や臨床情報も活用してAIで解析し、創薬ターゲット等を創出)に取り組むとしています。

さて、AIの話に戻し、このような状況下で、2023年2月に、自由民主党において新たに「AIの進化と実装に関するプロジェクトチーム」(座長:平将明衆議院議員)が立ち上げられ、日本のAI戦略のあり方や政策提言について検討が進められていく中で同年2月に開催された3回分の資料が塩崎彰久衆議院議員のサイト(https://note.com/akihisa_shiozaki/n/n4c126c27fd3d)で公開されています。その中でも東京大学大学院工学研究科の松尾豊教授のプレゼンテーション資料「AIの進化と日本の戦略」はわかりやすいと世間で評判になっているようです。以下に少し要約します。2020年のOpenAIによる1750億パラメータのGPT-3以降、2022年4月のGoogleによる5400億パラメータのPathways Language Model(PaLM)など、大規模化への競争が激しくなっている状況が提示され、OpenAIが2022年11月30日に公開したChatGPTについてGPT-3とその後継のGPT-3.5をベースにしたもので、現在は無料公開され、公開から1週間で100万ユーザ、2か月で1億ユーザに達し、従来の大規模言語モデルよりもデータセットの品質改善や強化学習を取り入れることで従来のモデルの課題を克服し高度な意味理解と会話(チャット)を可能としています。海外では既に学校や学会におけるChatGPTの使い方について、学校では宿題への利用禁止とか科学論文の執筆を禁止する一方で文章の編集や推敲に活用することは問題ないとするなどの対応が取られているとしています。今後の社会や仕事への影響については、既存ツールの使われ方に大きな変化が生まれ、専門的な業務を代行できるツールが多く誕生することが見込まれ、当該業務はほぼ全てに影響が出る可能性が高いとされており、日本の戦略については、基本的には次の3つが考えられるとしています。

1. 大規模言語モデルを自ら開発する
2. APIを使いサービスを作ることを奨励する
3. ユーザとして活用を促進する

これらのいずれかを選択肢とするにせよ、AIの「新しい時代」に入ったことで、資金も人も流れていくことが想像されるものの、急ぐ必要があるということが指摘されています。

終わりに、医薬情報の収集・提供事業を行うJAPICにおいても、これまでAI利用により業務の効率化が図れないか検討してきました。AI利用により得られる作業結果の精度から人による最終確認の省力化を図ることは限定的であってAI導入がコストに見合わないということと、関係法令に基づく業務についてはその結果の最終責任を法人として負うための確認が当然のことながら必要となることから、導入は検討課題としてきましたが、その他の一般的な業務においては効率化の観点から大いに検討し導入すべき「新しい時代」に入ったというべきかもしれません。このような観点からもJAPICとして国民、医薬関係者の皆様に対する情報提供サービスの向上に一層努力していく必要があります。今後とも関係者の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

知

っておきたい!

確かな情報を得るための「検索技術者検定」

鶴見大学 名誉教授
原田 智子 Harada Tomoko



1. はじめに

何か知りたい情報があると、Googleなどの検索エンジンを使用して誰でも気軽に検索を行ったり、SNS等による情報発信を行ったりする時代になっている。しかし、ウェブ情報で得られる情報の信頼性には、自分で判断する能力が求められる。そのような時代だからこそ、正しい情報や必要な情報を的確に検索するための知識やスキルが求められる。

ここでは、情報検索についての知識やスキルに関する検定試験である「検索技術者検定」について紹介する。

2. 「検索技術者検定」の沿革

「検索技術者検定」は、1985年に「データベース検索技術者認定試験」(通称サーチャー試験)という名称で情報科学技術協会(INFOSTA)が開始した資格試験であり、2022年で38回目になる。初年は2級のみ実施し、1986年から1級も開始した。1980年代は、例えば医学・薬学分野ではMEDLINE、EMBASE、BIOSIS等の有料データベースが海外から導入されて製薬企業等の情報部門担当者(サーチャーと呼ばれていたが、今日ではインフォプロと呼ばれることが多い)による情報検索が盛んに行われていた。情報検索には専門的な知識やスキルと、データベースの従量制や電話回線利用のためのコスト意識が求められた。その後、1993年には大学生、図書館司書、情報部門以外の社会人を対象とした「情報検索基礎能力試験」も始まった。2003年に1級、2級の名称も「情報検索応用能力試験」に改称した。2014年には両者を統合

して「検索技術者検定(通称検索検定)」と試験名を改め、1級、2級、3級を1つの試験として統合した。

試験は年1回11月下旬に実施しているが、2020年より3級のみ紙試験ではなく、会場型CBT(Computer Based Testing)方式に変更した。3級の試験期間は1日ではなく、2022年は8月1日から2023年1月31日までの半年間実施し、全国47都道府県で受験者の都合の良い会場と時間を選んで受験できるようになった。また、試験実施期間中であれば、受験料はかかるが不合格になっても再受験が可能になった。

3. 「検索技術者検定」の概要

3.1 「検索技術者検定」の目的と問われる内容

検索技術者検定の目的は、「企業、大学、組織等において、研究開発やマーケティング、企画等のビジネスで必要とされる信頼性の高い情報を入手して活用できる専門家を育成することです。これらの高度なスキルを持った人材は、大学、企業等の情報管理部門で情報調査の支援や利用者教育、情報分析と提供等が期待される「情報プロフェッショナル」であり、マネジメントの能力も必要とされます。1級、2級はこのようなプロフェッショナル能力を検定するものですが、3級は情報調査のリテラシー能力を検定するものであり、上位の級への入門的な位置づけとなります。」と「受験案内」に示されている¹⁾。すなわち、「検索技術者検定」は、表1に示したように級別に問われる内容が設定されている。

表1 「検索技術者検定」の受験対象者と各級で問われる内容

級	3 級	2 級	1 級
受験対象者	インフォプロ入門者 大学生、一般の社会人、情報部門に配属された新人、図書館員、等	インフォプロ中級者 情報検索業務従事者、情報関係の大学の履修者、レファレンス担当図書館員、等	インフォプロ上級者 実務経験が豊富な情報検索業務従事者、情報活動に高い知識とスキルをもつ上級情報担当者、等
3級で問われる内容	情報検索に関する基本知識(論理演算等を使用した検索式の作成)、情報資源の組織化、データベースの知識、インターネット情報資源の知識、知的財産権(産業財産権・著作権)の知識、コンピュータ、インターネットの知識、情報セキュリティの知識		
2級で問われる内容	情報資源の選択能力、情報要求者とのコミュニケーション能力、インフォプロの役割、データベースの歴史および流通、専門分野の情報資源の活用能力、英文読解力、情報の管理・分析、問題解決能力、文章作成能力		
1級で問われる内容	専門分野の法規制に関する知識、専門分野周辺領域に関する知識、小論文執筆能力、プレゼンテーション能力、ユーザー教育の企画・運営能力、インフォプロ教育の企画・運営能力、部門間調整能力		

注：各級で問われる内容は、2級は3級の内容を含み、1級は2級・3級の内容を含む場合がある。

3.2 「検索技術者検定」の出題形式

出題形式は、3級と2級前半は選択式問題、2級後半は記述式問題、1級一次は論文形式問題、1級二次はプレゼンテーションと面接試験となっている。また、2級以上では主題分野の知識も問われる。とくに2級後半の記述式問題では、出題問題が特許、ビジネス、ライフサイエンス、化学、図書館等の分野から自分が専門とする主題分野を選択して解く問題になっている。1級では、マネジメント能力が問われる出題となっている。また、受験資格は3級と2級は問われないが、1級は2級合格者という条件がある。

4. 受験勉強の方法

受験希望者は、情報科学技術協会が公開している「検索検定」のウェブページ²⁾を読むことが重要である。受験情報のみならず、過去問や解答例も掲載されている。3級では体験版、過去問と解答、練習問題&解答も掲載されている。今までの受験者数や合格率も知ることができる。また、1級および2級の解答例は、情報科学技術協会が発行する『情報の科学と技術』の7月号に毎年掲載されている。

3級は、『検索スキルをみがく 第2版—検索技術者検定3級公式テキスト—』³⁾から出題されるため、このテキストの内容を勉強し、上記の過去問や練習問題を解くことをお勧めする。2級は、『プロの検索テクニック 第2版—検索技術者検定2級公式推奨参考書—』⁴⁾が出版されており、これを中心に勉強するほか、最新情報については上記の『情報の科学と技術』の記事やデータベースペーパーなどのウェブサイトを確認し、過去問を解くとよいであろう。また、情報科学技術協会では、2級受験対策として「サーチャー講座21」というセミナーも毎年秋頃に開催している。

『情報の科学と技術』には、「検索技術者検定」に合格した方々の寄稿文「合格者の声」が毎年掲載されており、そこには受験の動機や勉強方法等、受験者にとって参考になる内容が記載されている。受験希望者は一読されることをお勧めする。

5. 医学・薬学系の仕事に従事される方のための受験の勧め

医学・薬学系の仕事に従事する人々は、医師、歯科医師、各種医療従事者、医学図書館員、製薬企業の研究者やメディカルアフェアーズのスタッフ等、非常に多岐にわたっている。これらの人々が医学・歯学・薬学・知財情報等を必要な時に的確に情報入手できるためには、これらの分野のウェブ情報資源や有料データベースに熟知している必要がある。適正なデータベースを的確な検索方法で利用してこそ、重要な情報を入手することが可能になるからである。1990年代以降、医療の現場で「EBM(Evidence Based Medicine)」に基づく

医療」が重視されているため、情報検索スキルを身に付けることは重要であろう。

幸いにも医学・薬学分野の情報資源やデータベースは、他の主題分野に比べて非常に充実しており、信頼性の高い機関が作成している。また、MEDLINE(PubMed)、EMBASE、医中誌Web、JMEDPlus等は、単に思いついた言葉で検索するのではなく、シソーラスを使用した統制語による検索も可能になっている。これらの重要な情報資源やデータベースを使いこなすには、ある程度の勉強が必要である。「検索技術者検定」はそのような点からも、情報検索の仕組みを理解し、情報資源やデータベースの特徴を知って的確な情報検索の知識とスキルを身に付けるよい機会になると考えられる。

6. おわりに

情報は社会生活を営む上で欠かせないものである。現在は、フェイクニュースや情報セキュリティに対して、正しい知識がないと自分が危険な目に遭うかもしれないという自己責任の時代でもある。AI(人工知能)による検索も導入されてきている今日、自分の情報検索に関する知識やスキルのレベルを確認し、必要があれば情報の専門家であるインフォプロに委ねる姿勢も必要と思われる。どの範囲までが自分自身で解決できるのか、どの範囲からはプロに任せた方が良いのか、そういう判断ができるためにも「検索技術者検定」3級を受験する意味はあると思われる。また、情報検索についてもう少し深く自分の知識やスキルを磨きたい方には2級合格を目指すことをお勧めする。インフォプロとして医療従事者のサポートや製薬企業の研究者に的確な情報提供をする立場にある方は、是非1級合格を目指していただきたい。

日本医薬情報センター(JAPIC)でも「検索技術者検定」の受験の支援制度があるとのことである⁵⁾。他にも受験を支援している企業等もあると聞いている。複雑な現代社会であるからこそ、高い検索能力を身に付けておくことが、日常生活や仕事の上で将来の糧になると思われる。

文献

- 1) 情報科学技術協会. 2022年度「検索検定」受験案内. https://www.infosta.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/08/jukenguide_2022.pdf (参照2023-02-19)
- 2) 情報科学技術協会. 検索検定. <https://www.infosta.or.jp/examination/> (参照2023-02-19)
- 3) 原田智子編著. 検索スキルをみがく 第2版 検索技術者検定3級公式テキスト. 樹村房. 2020. 147p. [参照: https://www.jusonbo.co.jp/books/248_index_detail.php]
- 4) 原田智子編著. プロの検索テクニック 第2版 検索技術者検定2級公式推奨参考書. 2020. 181p. [参照: https://www.jusonbo.co.jp/books/249_index_detail.php]
- 5) 井上彰. 特集: 検索技術者検定 日本医薬情報センター(JAPIC)における検索技術者検定の活用. 情報の科学と技術. 2022, vol.72, no.11, p.429-434. [本号は、「検索技術者検定」に関する特集号になっており、望月聖子、原田智子、石川賢一、井上彰による論文が掲載されている。]

「改訂新版 重篤副作用疾患別対応マニュアル 第4集、第5集」発行しました!

重篤副作用疾患別対応マニュアルは、厚生労働省の重篤副作用疾患総合対策事業として作成され、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構のホームページで公開されたマニュアルを纏めて冊子化したものです。平成19年に第1集を発刊後、平成23年に第5集までを発刊致しました（全75マニュアル）。その後、マニュアルの改定・更新作業が進められ、平成31年3月に「改訂新版 第1集」、令和4年1月に「改訂新版 第2集、第3集」を発刊しております。

今般、令和4年2月に公表された34マニュアルを「改訂新版 第4集、第5集」として纏め発刊することができました。日常の業務にご活用いただければ幸いです。

掲載マニュアルは以下のとおりです。



改訂新版第4集 約480頁

【皮膚】薬剤性過敏症症候群／急性汎発性発疹性膿疱症

【血液】出血傾向／無顆粒球症／血小板減少症／血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）／ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）

【呼吸器】非ステロイド性抗炎症薬による喘息発作／急性呼吸窮迫症候群・肺水腫／薬剤性好酸球性肺炎／肺胞出血／胸膜炎、胸水貯留

【代謝・内分泌】偽アルドステロン症／甲状腺中毒症／甲状腺機能低下症

【感覚器（耳）】難聴

【感覚器（口）】薬物性味覚障害

改訂新版第5集 約440頁

【神経・筋骨格系】薬剤性パーキンソニズム／白質脳症／横紋筋融解症／末梢神経障害／ギラン・バレー症候群／ジスキネジア／痙攣・てんかん／運動失調／頭痛／急性散在性脳脊髄炎／無菌性髄膜炎

【精神】悪性症候群／薬剤惹起性うつ病／ベンゾジアゼピン受容体作動薬の治療薬依存／リチウム中毒／薬剤性せん妄

【癌】免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象対策マニュアル

◆定価 各2,112円（税込）。B5判。

JAPIC会員特価 各1,900円（税込）

※会員の皆様には業務担当者宛に1部ずつ無償でお送りしております。

ご購入はJAPICホームページ、お問合せは事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276）までお願い致します。

4月末発売!

2023年版「医薬品製造販売承認品目一覧」/承認品目全データ

○2023年版「医薬品製造販売承認品目一覧」

JAPICでは、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造販売承認資料を入手し、1年分をまとめて「医薬品製造販売承認品目一覧」(1986年創刊)を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品(2022年1月から12月までの承認分)を収載した2023年版を発行いたしました。編集内容は、ご利用いただきやすいよう医療用、一般用(要指導医薬品を含む)別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。

◆価格 会員:11,000円(税込) 非会員:22,000円(税込)

○承認品目全データ

1931年~2022年12月まで92年間の医療用医薬品を対象に、承認品目、承認年月日、承認申請時の会社名がひと目でわかる承認データをご提供いたします。

◆データ形式 カンマ区切りテキストデータ(csv)

◆価格 会員:33,000円(税込) 非会員:55,000円(税込)

[お問合せ先]

事務局 渉外担当(TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461)

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2023年4月版」

◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。

(医療用は2023年4月、一般用は2023年3月までのJAPIC入手分を収録)

◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。

◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。

◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。

◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。

(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)

◆価格:単回 14,300円(税込)

年間セット4枚(4月・7月・10月・1月) 26,186円(税込)

[お問合せ先]

事務局 渉外担当(TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461)



薬系大学新1年生向けに 日本の医薬品 構造式集 2023を無償提供！

薬学教育支援の一助として、本年度も**日本の医薬品 構造式集 2023**を無償提供しました。薬系大学の新1年生向けに、各校ご利用の希望数を伺い、本年度は73校・合計13,000部を超える依頼をいただき、3月下旬に送付いたしました。

医薬品についての知識や技能の習得を補い、いくらかでも薬学と薬剤師教育の発展と高度化にお役に立ちたいとの思いから、薬系大学への「日本の医薬品 構造式集」の無償提供を毎年実施しております。提供先大学からは、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。

このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

日本の医薬品構造式集

- ・「JAPIC医療用医薬品集2023」収載成分から一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,500成分の構造式を収載しております。
- ・各成分には構造式のほか、一般名・化学名・薬効分類・効能効果・分子量・分子式を記載しております。
- ・索引は五十音（和文）索引とアルファベット索引の2種類を収録しており、五十音索引では製品名による検索ができます。

◆価格：1,980円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276 FAX：0120-181-461）



臨床試験情報JapicCTI事業終了のお知らせ

JAPICは2005年7月より、日本における医薬品等に関する臨床試験情報を登録、公開する機関としてJapicCTIの運営を行ってきました。

国内の臨床試験データベース一元化という厚生労働省の方針に基づき、この度、JapicCTIの全データが国立保健医療科学院の運営する臨床研究等提出・公開システムjRCT (<https://jrct.niph.go.jp/>)へ統合されました。

jRCTでのデータ公開に伴い、2023年3月6日をもってJapicCTIにおける臨床試験情報の一般公開を終了いたしました。また、2024年3月31日をもってJapicCTIの事業を終了いたします。

臨床試験の登録、更新にご協力いただきました製薬企業をはじめとするご登録者の皆様、および臨床試験情報を閲覧いただきましたご利用者の皆様におかれましては、長きにわたりJapicCTIをご利用いただき誠にありがとうございました。

くすりの散歩道

NO.152

薬と私のつきあい。そして、これからもお世話になります！

(一財)日本医薬情報センター 理事

多田 千里 Tada Chisato



4月になり新年度が始まり、新たな生活を迎えた人も多いと思います。私はというと、JAPICにて38回目の春を迎えていますが、今年は早くから花粉症が始まり、薬に頼る毎日です。JAPICは昨年12月1日に50周年を迎え51年目に入ったところですが、私自身の歴史も長くなりましたので、今回は、自分と薬について少し過去を振り返りかえてみようと思います。

子供のころはよく熱を出して病院に行きました。診察室に入ると、看護師さんが、ステンレス製の煮沸消毒器の中にガラスの注射器を長いピンセットで挟んで入れて消毒しているのを「やってみたいなあ」などと横目で見いていたものです。そして、その煮沸消毒した注射器を使って今では滅多にしない注射をしてもらうのです。薬は病院の中にある薬局の小さなガラス戸を開け、薬剤師さんから「これは咳止めで毎食後に、これは6時間おきに飲んでね」などとアバウトな説明を受け、もらってきたものです。

自宅には大きなアリナミンの缶があり、熱を出すたびに飲まれ、虫歯が痛いときには正露丸、擦り傷には赤チン、口内炎や咽頭痛にはピオクタニン、しもやけには熊の油。今でも覚えているのは顔を擦りむいて赤チンを塗り、その時に口内炎もありピオクタニンを口の中に塗られ、顔は一部赤く、舌や歯は紫でお歯黒状態。友達にも笑われましたが、今思い出してもハロウインのようではないですか。現在は両方ともに販売していませんので、今となっては貴重な体験でした。

毎年夏休みに祖母の家に遊びに行くと、富山の置き薬屋さんが来て、背中の荷物から女性の絵が描いてあるパッケージ（今ではレトロで重宝されているようですが）の薬などを取り出し、置き薬箱の中身を確認し、補充や交換をしていきました。子供の私達はいつも紙風船をもらうのを楽しみにしていたものです。紙風船には薬の名前やロゴが入っている四角いものもありました。思い出すと昔のドラマをみているような感覚になってしまいます。

その後私は薬剤師になり、薬を提供する立場になりました。病院に勤務していた時にもまだ薬情などというものはなく、子供のころ自分が薬をもらってい

た時とほぼ同じように口頭で「これは血圧の薬で1日3回食後に、これは痛み止めで痛い時になるべく食後に」などと説明していました。当時は癌の患者さんにも本人に告知することはほとんどなく「消化薬です」などと説明したものです。田舎の病院でしたが、結構患者さんも多く、薬を渡すときには世間話なんかもして、なんと縁談の話までいただきました。ここでコミュニケーション能力が少しは鍛えられたのではないかと思います。

薬について調べたい時は薬局にあった赤い医薬品集と書店で買った治療薬について書いてある本で調べていました。そして、その病院には看護学校の生徒さん達がいて、あの重くて赤い医薬品集を教科書として一人1冊持ち歩いていたので、大変だなあと思っていた記憶があります。その時は自分が数年後に医薬品集を編集するとは思っていませんでした。

JAPICに勤務してから今度は薬の情報提供に携わり早40年弱、私が入社してから添付文書は郵送で送付いただいて収集していた時代から電子になり、文献データベースも紙（カード）からインターネットになり、医薬品の情報提供内容や提供媒体もかなり変化しました。

私がアバウトな説明で患者さんに薬を渡していた時がなんとものんびりした時代で隔世の感があります。今患者さんは薬の情報をかなり詳しく知ることができ、副作用についても把握できるようになっています。情報過多の中にいる患者さんの不安を少しでも払拭してあげる。これがこれからの薬剤師に求められる役割のひとつであるということがよく分かります。振り返って懐かしんでばかりではいられません。JAPICの情報提供が最終的には患者さんのために、これからも時代の変化とニーズを的確に捉えて進んでいかなければなりません。

自分自身のことになると、今までも薬にはかなり助けられ、思わず開発した人に感謝したくなる時もありました。これからはもっと薬が必要な年齢になっていきますが、頭や体の錆びとも戦いながら、薬とは仲良く付き合っていきたいと思います。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2023年1月1日～2月28日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.886-892) の記事から抜粋

■米FDA

- Class I recall: Datascope / Getinge, 損傷したバルーンカテーテルから血液がポンプに流入し、患者に危害を及ぼすリスクがあるため、Cardiosave HybridおよびRescue Intra-Aortic Balloon Pumps (IABP) をリコール
< <https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/datascope-getinge-recalls-cardiosave-hybrid-and-rescue-intra-aortic-balloon-pumps-iabp-risk-blood-may> >
- Class I Recall: LivaNova (TandemLife), コントローラーの重大な障害により意図しない長時間のポンプ停止のリスクのある可能性のあるLifeSPARC Systemのリコールに追加
< <https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/livanova-tandemlife-adds-recall-lifesparc-system-may-experience-unintentional-extended-pump-stop> >
- Smiths Medical, 治療の遅延, 中断, または過少送達が生じる問題のため, 特定のCADD System Administration SetおよびCassette Reservoirをリコール
< <https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/smiths-medical-recalls-certain-cadd-system-administration-sets-and-cassette-reservoirs-issues> >
- 修正された特定のPhilips Respironics Trilogy 100/200人工呼吸器, シリコンフォームの接着不良とPE-PURフォーム破片残留の可能性がありリコールされた: FDA Safety Communication
< <https://www.fda.gov/medical-devices/safety-communications/certain-reworked-philips-respironics-trilogy-100200-ventilators-recalled-due-potential-silicone-foam> >

■Health Canada

- Summary Safety Review—第三世代アロマトーゼ阻害剤 (anastrozole, exemestane, letrozole) —腫瘍の潜在的リスクの評価
< <https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00289> >
- Summary Safety Review—finasteride—自殺, 自殺願望 (自殺念慮) および自傷行為の潜在的リスクの評価
< <https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00290> >
- Summary Safety Review—Cephalosporins (cephalexin[cefalexin], cefazolin, cefadroxil, cefoxitin, cefuroxime, cefprozil, cefotaxime, ceftazidime, ceftriaxone, cefixime, cefepime, ceftobiprole, ceftolozane-tazobactam含有製品) —痙攣発作の潜在的リスクの評価
< <https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00291> >
- Summary Safety Review—rocuronium—散瞳の潜在的リスクの評価<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00292>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication (DHPC): Adakveo (crizanlizumab): 第3相試験 (CSEG101A2301)はプラセボに対するcrizanlizumabの優越性を示さず
< https://www.ema.europa.eu/documents/dhpc/direct-healthcare-professional-communication-dhpc-adakveo-crizanlizumab-phase-iii-study-cseg101a2301_en.pdf >

■英MHRA

- 局所testosterone (Testogel): 偶発的な曝露による小児への危害のリスク
< <https://www.gov.uk/drug-safety-update/topical-testosterone-testogel-risk-of-harm-to-children-following-accidental-exposure> >
- National Patient Safety Alert: NIDEKのEyeCee One preloadedおよびEyeCee One Crystal preloaded眼内レンズ(IOLs): 眼圧上昇のリスクについて
< https://assets.publishing.service.gov.uk/media/63da7c08e90e0773e2439a1e/NatPSA_2023_003_MHRA.pdf >

■独BfArM

- Caprelsa (vandetanib)に関するRote-Hand-Brief: 適応制限
< <https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RHB/2023/rhb-caprelsa.html?nn=591006> >

■仏ANSM

- Antarene Codeine (codeine/ibuprofen): 長期摂取は, 乱用および依存の場合, 腎毒性や腸毒性を引き起こし死亡に至る可能性がある
< <https://ansm.sante.fr/actualites/antarene-codeine-codeine-ibuprofene-la-prise-prolongee-en-cas-dabus-et-de-dependance-peut-entrainer-une-toxicite-renale-et-intestinale-pouvant-conduire-au-deces> >

■豪TGA

- 妊娠中には可能な限りpregabalinの処方控える: Medicines Safety Update
< <https://www.tga.gov.au/news/safety-updates/avoid-prescribing-pregabalin-pregnancy-if-possible> >

■シンガポール HSA

- Minurin (desmopressin) 0.1mg/mL点鼻液: 賦形剤chlorobutanolへの曝露による不整脈および生殖毒性の潜在的リスクに関する情報
< [https://www.hsa.gov.sg/announcements/dear-healthcare-professional-letter/minurin-\(desmopressin\)-0.1-mg-ml-nasal-spray-solution-information-about-potential-risk-of-arrhythmia-and-reproductive-toxicity-from-exposure-to-the-excipient-chlorobutanol](https://www.hsa.gov.sg/announcements/dear-healthcare-professional-letter/minurin-(desmopressin)-0.1-mg-ml-nasal-spray-solution-information-about-potential-risk-of-arrhythmia-and-reproductive-toxicity-from-exposure-to-the-excipient-chlorobutanol) >

■医薬品医療機器総合機構

- ヒドロキシエチルデンプン含有製剤 (HES製剤) の適正使用について<<https://www.pmda.go.jp/files/000249767.pdf>>
- ベタニス錠は徐放性製剤です 分割、粉砕、かみ砕いての服用はできません<<https://www.pmda.go.jp/files/000249811.pdf>>

■厚生労働省

- 在宅酸素療法における火気の取扱いについて<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000003m15_1.html>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://tech.libblabo.jp:53081/blabo/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書 名	著 者	出版者	出版年月
今日の治療指針 2023年版 (Volume 65) : 私はこう治療している	福井次矢、高木誠、小室一成 総編集	医学書院	2023年1月1日
第十八改正日本薬局方 第一追補	厚生労働省	厚生労働省	2022年12月

情報提供一覧

2023年3月1日～3月31日提供

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉Free https://database.japic.or.jp/	
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2023年2月分 (HP定期更新情報掲載)	3月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「日本の医薬品 構造式集 2023」	3月 8日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2023」	3月13日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「JAPIC NEWS」No.467 2023年4月号	3月31日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. 「改訂新版 重篤副作用疾患別対応マニュアル」第4集	3月31日	5. 臨床試験情報※	1月20日更新停止
6. 「改訂新版 重篤副作用疾患別対応マニュアル」第5集	3月31日	6. 日本の新薬	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉(郵送、電子メール等で提供)		7. 学会開催情報	毎 日
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	〈iyakuSearchPlus〉 https://database.japic.or.jp/	
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」	毎 日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
6. 「JAPIC Weekly News」	毎 週	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」	毎 週	※臨床試験情報JapicCTIはJRCT (https://jrct.niph.go.jp/) への統合のため 2023年3月6日をもちまして公開を終了しました。	
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	https://jdream3.com/
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	https://telecom.nikkei.co.jp/

医療用医薬品集

普及新版2023

2023年
3月発行

価格：5,280円(税込)

A5判／約1,900頁

本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約4,500頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,300成分、約21,000製品の医療用医薬品情報を2023年1月時点の最新情報で収録。

■掲載内容

- | | |
|--------------|------------------|
| ◎一般名、製品名 | ◎特定背景関連注意 |
| ◎承認日(一部製品) | ◎相互作用(併用禁忌・併用注意) |
| ◎組成(規格) | ◎副作用 |
| ◎効能・効果、用法・用量 | ◎高齢者への投与 |
| ◎警告 | ◎妊婦・産婦・授乳婦等への投与 |
| ◎禁忌、原則禁忌 | ◎小児への投与 |
| ◎慎重投与 | ◎臨床検査結果に及ぼす影響 |
| ◎重要な基本的注意 | ◎薬物動態における半減期 |

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC

丸善出版株式会社

編集・発行 TEL 0120-181-276

発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせは事務局 渉外担当(TEL 0120-181-276)まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

みつばつちぐり

「三葉土栗」と書く。学名: *Potentilla freyniana* Bornm. ばら科さびむしろ属。国内各地に分布。日当たりのよい草原や丘陵地に生える。4～5月頃に黄色の小さな花を付ける。5月末頃にイチゴのような小さな果実ができる。ジヒドロカルコン系Phloretin配糖体(抗酸化活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより

<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。